

## 『デザインするな』

藤崎圭一郎 著 DRAFT 監修・デザイン  
DNP アートコミュニケーションズ 3,990 円 (税込)

見る人に伝えたいことが溢れている  
「なるほど,これが広告か」

会員 石橋 源也 (58期)



単色の表紙に『デザインするな』で始まる短い文章。デザインについて語る本とは思えない簡素な表紙に目を引かれ,手に取った。パラパラとめくると,何と本の後半分が広告の写真集のようにになっている。何だこれかと思いきやすぐに本棚に戻すが,どうにも気になり読み始めたのがこの一冊である。

本書は,クリエイティブディレクターの宮田識氏と,同氏が代表を務める株式会社ドラフトの各種の作品を通じて,その作品の裏にある考え方(著者は「ディレクター道」と呼んでいる。)を語ったものである。

宮田氏及び株式会社ドラフトといえば,麒麟ビールの「うまいビールは麒麟がつくれ。」など数多くの広告を手がけた,有名なクリエイター集団である。

広告やデザインというと,「虚飾」と考える向きも

ないではない。しかし,紙面の都合上その内容にまで触れることはできないが,本書を読む限り,宮田氏及び株式会社ドラフトの作る広告は,虚飾どころか,その本質を伝えることが目的であるようである。制作過程を聞くと,その広告の中には,見る人に伝えたいと思うものが,文章中・写真中を問わず,溢れている。

そうした気持ちで本の後半分の広告を見ると,さっきまで単なる写真集と思っていた広告が色々語り出しているように思えるから不思議である。

そういえば,昔モスバーガーの広告を端から端まで読んで,それを作った会社に思いを馳せたことを思い出した。弁護士とは違った形の文章表現がここにはある。なるほど,これが広告か。そう思わせてくれる一冊である。